

教育情報コーナーからのお知らせ



学校行事に校内研究そして生徒指導。子どもたちに対してもついついほめるよりも叱ってしまいますね。

叱り方にも上手・下手があるのだそうです。叱り方のポイントを押さえて叱り上手に。



いつも自分がどんな叱る言葉を発しているかを振り返ってみましょう。



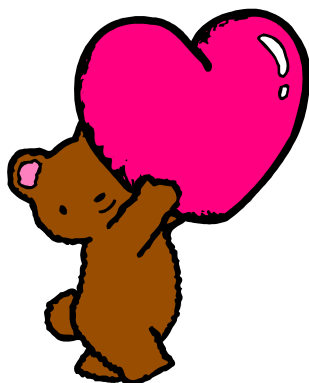
叱るときは「短く」「くどくならない」。

同じことを何度も繰り返し、子どもが「わかった」というまで叱る。子どもからいい返事があつたときに少し安心する。その安心が得られるまで叱ってしまう。しかし叱られた方はどうなるのか。うんざりして反抗するか、その場限りの返事をして早く終えようとするかであろう。

短く叱るためにも「以前のことは持ち出さない」。

子どもと大人の時間のとらえ方は異なる。大人にとっては一か月前の出来事はつい昨日起きたかのように鮮明に蘇る。しかし子どもは違う。一か月前のことは昔のようにしかとらえられない。なんであのとき怒られて済んだことを持ち出すのかと反発してしまう。いま注意していることの焦点をぼかさないことである。

子どもは大人の話す内容よりその言い方に反応してくることも忘れずに。



児童心理『育てるほめ方・叱り方』より